

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2021年 助成団体活動成果レポート



助成団体

特定非営利活動法人 SET

岩手県陸前高田市

プロジェクト名

長期滞在型 広田暮らし体験事業

■地域の課題

新型コロナウイルスの流行が長期化している中、交流が依然生み出しづらい状況となっています。短期的な外部の人の受け入れは困難であり、町の滞在者への心理的ハードルも高いように感じます。一方、地域の生産者からは、コロナによる飲食業の時短要請や休業の影響から、「魚介類等の出荷先が無くなってしまった」などという人が多く、中には漁に出なくなってしまった人もいます。また、「若者が来なくて寂しい」「若者が町を歩く姿は日常だった」と寂しがる地域住民の声も少なくありません。そんな課題感から、長期滞在を生み出すことで、「長く濃い滞在」を作り、地域内と外の関係性を紡いでいくことを切らさないことが重要だと考えました。

■当団体の紹介

2020年度に陸前高田市広田町で空き家となっていた古民家を改修し、ワーケーション施設として整備しました。本施設を活用しながら、コロナ禍においても広田町に長期間滞在していただける方々に対し、広田の魅力を情報発信するとともに、ディープな「広田暮らし」を味わってもらえるよう体験コンテンツづくりに取り組みます。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

広田町に長期で滞在する人呼び込み、地域の人との交流、自然・地域の食・命・歴史に触れながら過ごすことで、滞在者自身の豊かな「暮らし」や「生き方」を見つめ直す機会を創ることを目指します。また、広田町に対し、滞在者が愛着を持ち、「また来たい」「これからも広田町を応援したい」と思う関係人口を増やしていくことで町の持続可能性に貢献することを目的に活動しています。

■具体的な活動は？

これまでの、“ワーケーション”の概念を参考にした広田暮らし体験事業をベースに置き、以下のことに新しく取り組んでいきました。

1. 地域内の集客導線の拡大

企業研修や行政研修を実施する際に利用してもらう事で、地域の暮らしをより深く体験してもらいました。その他に地域の居場所となっている「コミュニティカフェ彩葉」や町の方が日常的に利用する海がよく見える黒崎温泉などの施設を案内し、暮らし体験をより深くしてもらいました。

2. 「専門家による“濃いワーケーション”」実施

- システムエンジニアの方が滞在しました。ゆっくりと滞在してもらうことで、仕事に集中することができただけでなく、地域の方からお野菜を頂くなど暮らしを体験できたという声を頂きました。その後、その方は広田町での暮らしをしたいということから、5か月間陸前高田市広田町に短期移住しました。
- 講師を呼んでの農の合宿を実施した際に地域に合わせた合宿にできるよう講師の方に宿泊していただきました。地域にある神社の神主の方とお話するなど地域をより深く理解してもらうことができました。
- デンマーク人家族5人が長期滞在（約3か月）し、共同で音楽コンサートを実施したり英語教室を開催するなどして地域に住む方々と一緒に活動しました。

3. 「暮らし体験コンテンツ」の開発

デンマークからの長期滞在者に対して、地域の食材をふんだんに使ったケータリングサービスを実施しました。また、地元食材の野菜や魚、地域のおばちゃんが作ったお惣菜を定期的に配達しました。魚はその日の朝にとれたもので新鮮であり、魚をさばくことが初めてで、地域の暮らしを体験することが出来たという声を頂きました。実際に地域の方の生産活動のお手伝いに行ったり、地域の生産を支えることに繋がりました。

4. 年間を通して、15組の受け入れを実施しました。

- 2022年5月
システムエンジニアの方が約1週間滞在し、その後5ヶ月の短期移住をしました。
- 2022年7～9月
デンマークからの3か月間の長期滞在者の受け入れを実施しました。
- 2022年11月
実業家の方に滞在していただきました。Facebookで体験を投稿してもらい、また来年も来たいというお声を頂きました。

その他に、年間を通して、会社員10組、起業家2組、大学教授2組の受け入れを実施しました。



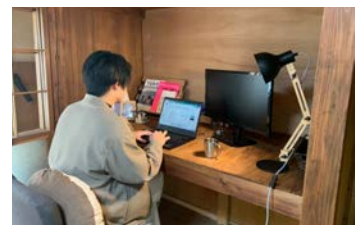
デンマーク人家族5人が施設を訪れた初日



デンマーク人家族によるアートワークWS



デンマーク人主催のコミュニティカフェでの音楽ワークショップの様子



モニター完備し集中して仕事を出来るスペースがある

■活動の成果は？

- ・訪問者は、町の魅力や地方での暮らしを体験し魅力を体感出来たことにより、暮らしの選択肢の幅が広がりました。
- ・外から来た人との交流により地域の魅力を外からの視点で伝えてもらう事で、この町に住む方々にとって当たり前だったものの魅力にご自身が気付くきっかけになりました。
- ・地域内への経済効果(温泉、食事など)

長期でのワーケーションの課題やニーズを様々な方を受け入れることができたことでより深く理解することができました。また宿泊体験してもらう事で、宿泊施設に足りないものや改善したほうがよいことを把握したり、宿泊施設の価値を体験者の視点から知ることができました。



ワーケーション施設の窓からは海が見える



地域の風土を理解したうえで、地域資源を活用した畑づくりWSを開催



農の合宿にてカフェ彩葉を利用した対話会



野菜を配達している様子

団体からのコメント

法人全体での連携を強めることを考えています。サステナビリティやWell-beingなどの観点から人と人のつながり、人と社会のつながり、人と自然のつながりを体感できるという点に焦点を当てて価値を高め、それらをよりスムーズに体験できる導線を作りたいと思います。

課題としては、自家用車をお持ちでない方に関して、特に長期滞在する方のレンタカー以外の安価で利便性の高い移動手段をどう整備するかが挙げられます。

【1.組織内の課題を柔軟に改善できる体制の構築が急務】

2年ほど前まで事務局専任という人材を配置しておらず、事務局業務を理事長中心に事業ごとに対応していました。その後、組織再編により3部局制+事務局としましたが、事務局との間で適切な権限整理や業務分担が未整備の状態です。結果、事務局での横串の管理体制が難しく、事業3部局の事業推進力は低下しています。

【2.長期的なファンドレイズ基盤の構築が必要】

全社的で継続的なファンドレイズ活動がなく、これまでの1,500を超える人たちとの関わりや1ヶ月で750名から寄附をいただいた実績が蓄積できず、寄附・会費のような財源の確保に取り組めていません。結果、不安定な外部資源に依存せざるを得ず、かつ経済的困難な受益者の負担が軽減できない状態です。

【3.会計制度の見直しにより業務効率の向上が必須】

社会的需要の増加により、大型助成金の獲得や新たなステークホルダーの増加があり、会計報告の事務業務が増加しました。しかし一元的な管理体制が未整備で会計に関するマインドセットやサポートが十分に機能していません。結果、スタッフが事務業務に追われ、かつ業務効率の改善・向上が難しいという状態にあります。

(組織)

ミッション・ビジョンにもとづいた経営戦略によって社会的インパクトの最大化とともに所属する会員の幸福度の向上に寄与できる組織運営を実施していきます。認定NPOを取得し、外部機関との連携を強化し、寄附へとつなげることで安定した財務基盤の確保による持続可能な組織を目指します。

(活動)

岩手県全体を巻き込んで関係人口を創出し、人間成長の場を生み出すことで、地域経済の好循環へとつなげていくことに取り組んでいきます。またそうした好事例を検証することで、日本の地方創生において政策提言を行っていく地域のリーダーとなり、日本全体へと波及していくことを目指します。